

●服部 有宏（はっとり くにひろ）

生年月日：1960 年 2 月 25 日生まれ（66 歳）

出身地：兵庫県姫路市

学歴

1978 年 3 月 兵庫県立姫路西高等学校 卒業

1984 年 3 月 大阪大学薬学部 修士課程 修了

1996 年 9 月 大阪大学大学院薬学研究科 博士号取得

職歴

1984 年 4 月 中外製薬株式会社 入社

2004 年 4 月 研究本部 ゲノム抗体医薬研究部長（～2011 年 9 月）

2011 年 10 月 研究本部 探索研究部長（～2016 年 3 月）

2016 年 4 月 研究本部フェロー（～2019 年 3 月）

2017 年 4 月 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 招聘教授（～2024 年 3 月）

2019 年 4 月 参与 研究本部シニアフェロー（～2024 年 3 月）

2026 年 1 月 一般社団法人日本国際創薬エコシステム協会 メンター（現職）

功績

入社後は顆粒球コロニー刺激因子とエリスロポエチンの創薬研究に取り組む。その後、抗体の作用持続性を高めるリサイクリング抗体技術の創出、血友病 A に対するバイスペシフィック抗体の研究まで、中外製薬の研究開発の礎となるバイオ医薬品研究体制を確立した。服部のアイデアやリーダーシップは技術ドリブン創薬、Chugai R&D Principles の原点となっている。

研究への原動力と受賞への思い

「世の中に貢献できる人間になりたい」という中学生時代の想いと、大学での血小板研究が、血液凝固研究の原点となりました。血友病 A において、欠けた第 VIII 因子を補うのではなく、抗体にその橋渡し機能を担わせるという着想から、エミシズマブの研究が始まりました。多くの研究者や臨床の先生方とともに「世のため、患者さんのため」に力を尽くした成果が、今回の受賞につながったことを大変光栄に思います。

しかしながら、治療を必要としながらも十分な恩恵を受けられていない患者さんが世界には今なお存在します。この治療を世界中の患者さんへ届けることが、私たちに残された課題だと考えています。



●北沢 剛久（きたざわ たけひさ）

生年月日：1968 年 10 月 12 日生まれ（57 歳）

出身地：東京都あきるの市

学歴

1987 年 3 月 大阪府立茨木高等学校 卒業

1993 年 3 月 東京大学農学部獣医学科 卒業、獣医師

2021 年 3 月 筑波大学大学院理工情報生命学術院 博士号取得

職歴

1993 年 4 月 中外製薬株式会社 入社

2017 年 4 月 バイオ医薬研究部長（～2018 年 12 月）

2019 年 1 月 創薬薬理研究部長（～2023 年 6 月）

2023 年 7 月 創薬薬理第二研究部長（～2026 年 6 月）

2026 年 1 月 研究本部副本部長

2026 年 4 月 参与 研究本部副本部長（現職）

功績

創薬研究、特に血液凝固分野の研究を基盤に、血友病 A 治療薬エミシズマブの創製に携わる。さらに、希少血液疾患（クロバリマブ）、がん免疫、筋疾患など幅広い研究領域を経験し、現在、中外製薬の研究本部を牽引する一人として、さらなる革新的創薬の実現に取り組んでいる。

研究への原動力と受賞への想い

高校時代、新聞の連載コラムを通じて、未来を切り拓く技術として台頭しつつあったバイオテクノロジーに魅了されました。それ以来、未知を解き明かす研究の喜びと、患者さんに革新的な治療を届けたいという想いを胸に、研究に取り組んできました。

多くの医療関係者の皆様や研究仲間との協働により、エミシズマブの創出に携わることができました。また、臨床試験に参加して下さった血友病 A の皆さまとご家族に、心より感謝申し上げます。今回の栄誉が、次なるイノベーションを生み出す契機となると信じ、今後も力を尽くしていきます。



●井川 智之（いがわ ともゆき）

生年月日：1976 年 9 月 27 日生まれ（49 歳）

出身地：神奈川県横浜市

学歴

1995 年 3 月 桐蔭学園高等学校卒業

2001 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻
修士課程修了

2011 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻
博士号取得



職歴

2001 年 4 月 中外製薬株式会社 入社

2016 年 1 月 バイオ医薬研究部長（～2017 年 3 月）

2017 年 4 月 Chugai Pharmabody Reserch Pte. Ltd. CEO 兼リサーチヘッド（シンガポール）
（～2020 年 12 月）

2021 年 1 月 トランスレーショナルリサーチ本部長（～2023 年 12 月）

2024 年 1 月 研究本部長

2024 年 4 月 執行役員 研究本部長（現職）

功績

エミシズマブに用いられたバイスペシフィック抗体をはじめ、リサイクリング抗体、スウィーピング抗体、スイッチ抗体など、中外製薬の抗体技術を発明し「技術ドリブン創薬」を確立。エミシズマブ、および、サトラリズマブ、クロバリブマブ、ネモリズマブの創製に関わり、その後 Chugai Pharmabody Research の立ち上げに関わる。Chugai Pharmabody Research の CEO 兼リサーチヘッドとして、シンガポールにおける抗体技術開発および中分子創薬体制を確立。現在は中外製薬の創薬研究を研究本部長として主導し、患者さんに貢献する革新的な医薬品の創製・開発に邁進。

研究への原動力と受賞への想い

幼い頃、レゴに夢中になり、説明書にないものを自由な発想で形にすることが大好きでした。その経験から育まれた「まだ存在しないものを自らの手で生み出したい」という想いが、私の研究の原動力です。患者さんにご家族の負担を少しでも軽くし、より自由な日々を届けたいという願いが、困難な研究を前へ進めてきました。

このたび、3 名同時にこのような栄誉ある賞を受賞できたことを、心から光栄に思います。

これからも自由な発想と科学の力で、人々の人生に貢献する医薬品の創出に挑み続けます。